



無理をしてでも受験しなければならない場合も

日本の高等学校は義務教育ではなく、また、633と固定化した制度であるため、高校の途中から入学することが難しくなっています。高校編入(途中入学)は、まったくできないわけではありませんが限られた学校しかなく、更に募集人数も若干名なため、不本意な学校選択になりがちです。納得のいく高校生活のためには、高校受験で帰国するか大学受験まで海外に残るか、はっきりと決断する必要があります。

高校受験のメリットとデメリット

中学受験・高校受験・大学受験と3者を比較したとき、高校受験は帰国生のための配慮がもっとも少ない受験です。いくつかの学校を除いて、日本の受験生たちと同じ、3科目・5科目の筆記試験で合格を勝ち取らなくてはなりません。では、高校受験で帰国することは、デメリットしかないのでしょうか？ 私どもは、そうは考えません。高校の3年間は、人格形成の上で非常に大きな意味を持ちます。日本の社会に適應する上で、高校生活を日本で送るか、海外で送るかは重大な違いをもたらします。

難関校ほど入りやすい？

日本の高校は公立・私立を問わず、「難関校は実力勝負」「中堅校は内申をもとにした事前相談の影響が大きい」という傾向があります。海外からの受験となると事前相談の恩恵が受けられないので、どうしても中堅校の受験は難しいものになります。それに対して国立・早慶などの難関校は、筆記試験の実力勝負である上に、帰国子女のための優遇措置がありますので、受験準備をしっかりとってきた生徒にとっては、帰国子女が受験するメリットは大きくなります。

では、帰国子女高校入試について、受け入れ校や選抜方法の内容を見てください。

●●●帰国生の受け入れ校●●●

(1) 海外留学生や帰国生と学習することを目的としている学校

いわゆる「国際化」に対応するため、海外留学生や帰国生が多数いる学校の中で学べることを特色としてアピールしている学校があります。これらの学校では、かなりの数の帰国生を確保しなければならないので、帰国生に配慮した選考が行われています。また、帰国生をたくさん指導した実績に恵まれているので、その特性を十分に考慮し、長所を伸ばす方法を心得ているということでも、安心できる学校です。

(2) 普通の高校ではあるが、帰国生を受け入れる枠を設けている学校

「国際化」が目的というより、「国際化」が進んだため、違った制度で教育を受けた生徒に受験資格を与えて公平性を確保しようと考えた(あるいは、そうするよう指導された)学校です。あくまでも受験資格を与えることが目的なので、試験の配慮はあまり行われず、入学後も特別な扱いは期待

できません。

【国立大学附属高校】

一般入試同様の問題を5教科で実施する学校や科目数が軽減されて、国語・数学・英語の3教科入試の学校があります。

【公立高校】

帰国生の多い都道府県は、いくつかの学校を受け入れ校に指定し、帰国生が受験できるようにしています。埼玉県のように特定の学校を指定せずに県内全ての公立高校で受け入れている例もあります。募集学科、募集人数、出願資格や条件、出願書類や手続き、選抜方法などは、都道府県によって異なります。

【私立高校】

大学附属校や有名進学校が「帰国枠」をもうけて積極的に帰国生を受け入れています。基本的に一般生と同じ日程で国語・数学・英語の3教科を課す高校がほとんどですが、一般入試とは全く異なった適性検査(基礎学力検査)を課す高校や、英語のみの試験を実施している学校もあります。また、そもそも一般枠での募集をしていない学校が、帰国生のための問題を作成して試験を実施しているところもあります。

●●●帰国生入試選抜方法●●●

(1) 学科試験を課さない学校

作文・面接だけで受験することができます。もちろん、普通の3教科試験も選択できることがほとんどです。

(2) 特別な学科試験を作成する学校

帰国生のための特別な学科試験を用意している学校です。ただ、その内容は学校によって大きく異なります。例えば、英語のウェイトが大きい、英・数・国・理の学力を重視する学校や国語・数学しか科目がないが出願資格としてある程度の英語力を要求している為、あえて試験をする必要がないという学校もあります。いずれの学校も、学科試験だけではなく、面接が重視されるので注意が必要です。

(3) 英語力を重視する高等学校

英語・面接だけで試験を実施します。

最後に…

帰国受験でよく耳にするICU(国際基督教大学高等学校)、学芸大学附属、広尾学園から青山学院、早稲田・慶応系列校、そして、帰国枠を設けている都立高校と設けていない日比谷・西高校等々、海外からの受験の実態などお話ししたかったのですが、それはまた別の機会に寄稿させていただきます。紙面のスペースの都合もあり、今回は、帰国受験全般について、大枠の内容に絞りましたので、具体的な学校名を記載できなかったのですが、弊社ホームページ上では、各項目に当てはまる学校名等、より詳細な情報が閲覧できますので、ご興味のある方は、そちらもご参照ください。(cna 池田 聡)

星出彰彦宇宙飛行士の外務大臣表彰



星出彰彦JAXA宇宙飛行士は、日米宇宙協力における多大な貢献が認められ、外務大臣表彰を受賞しました。7月21日、村林在ヒューストン日本国総領事は、公邸にて祝賀レセプションを開催し、NASA、JAXA、石川隆次郎商工会第一副会長をはじめ日

本人コミュニティの代表ら約60名が出席しました。

星出宇宙飛行士は、2008年スペースシャトル、2012年ソユーズ宇宙船、2021年スペースX社クルードラゴン宇宙船にそれぞれ搭乗し、これまで計

3回にわたり国際宇宙ステーションに滞在しました。現在は、JAXAヒューストン駐在員事務所所長も務めています。

授与式のはじめに、村林総領事は、星出宇宙飛行士の有人宇宙探査へのこれまでの貢献に感謝しつつ、表彰状と記念品を授与しました。星出宇宙飛行士からは、全ての出席者に対し感謝の言葉が述べられました。続いて、Vanessa Wyche NASAジョンソン宇宙センター所長は、星出宇宙飛行士のNASAとJAXAの関係強化における貢献を称え、ヒューストン市からはNike Luqman氏の代読によって感謝状が贈られました。最後に、若田光一JAXA宇宙飛行士が乾杯の発声を行いました。

続くレセプションでは、出席者が次々に星出宇宙飛行士へ祝辞を述べ記念撮影するなど、星出宇宙飛行士への信頼と親愛の情を感じさせるひと時となりました。

